

意欲的に課題を解決しようとする態度を育てる算数科指導の工夫 - 「分かった」「できた」と実感できるステップ型課題提示を通して -

算数・数学班 木村 貴洋(小学校教諭)

目指す児童像

意欲的に課題を
解決しようとする児童

児童の実態

- ・難しい問題をあきらめてしまう。
- ・実生活に生かすような発展問題では白紙のまま過ぎてしまう。

教師の願い

- ・難しい問題に取り組んでほしい。
- ・実生活の中で学習したことを生かそうとしてほしい。

研究の見通し

1単位時間において難易度を段階的に上げていくステップ型課題提示を行い、解決方法を確認してから課題を解決し、「分かった」「できた」と実感できるようにする。



前時までに学習した問題で、ステップ2につながる問題

ステップ1
「復習問題」を提示

ステップ2
「簡単な問題」を提示

教科書に沿っていて実態に応じて難易度を変えた問題でステップ3につながる問題

ステップ3
「実生活に即した問題」を提示

児童の身近なものを題材にしたもので、ステップ2を生かして解決できる問題

実践例第3学年「長さ」 第5時 1単位時間内

ステップ型課題提示

ステップ1
「復習問題」を提示

簡単な問題につながる復習問題

$$1\text{km}200\text{m}+650\text{m}=\quad$$

$$2\text{km}380\text{m}-1\text{km}500\text{m}=\quad$$

解決方法を確認

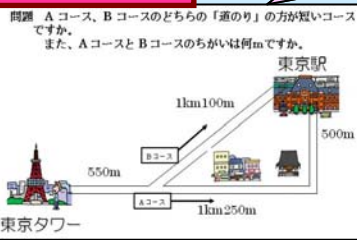
- ・Kmとmの位をそろえて計算することを確認する。

$$\begin{array}{r} 1\text{km}200\text{m}+650\text{m} \\ =1\text{km}850\text{m} \\ 2\text{km}380\text{m}-1\text{km}500\text{m} \\ \begin{array}{r} 2380 \\ -1500 \\ \hline 880 \end{array} \\ =880\text{m} \end{array}$$

分かった!できた!

ステップ2
「簡単な問題」を提示

教科書に沿っていて実態に応じた問題



解決方法を確認

- ・道のりを指でたどって何コースあるかを確認する。
- ・分かっている数値はいくつか確認する。

$$\begin{array}{l} A\ 1\text{km}250\text{m}+500\text{m} \\ =1\text{km}750\text{m} \\ B\ 550\text{m}+1\text{km}100\text{m} \\ =1\text{km}650\text{m} \end{array}$$

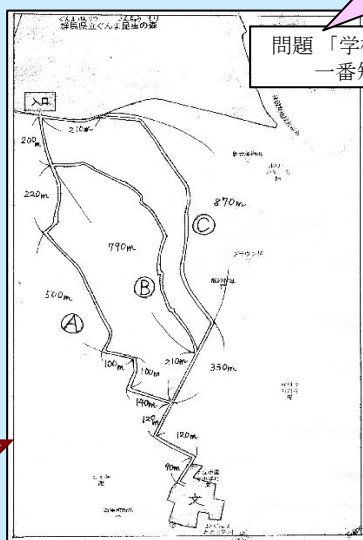
答え Bコース

$$1\text{km}750\text{m}-1\text{km}650\text{m} \\ =100\text{m}$$

答え 100m 分かった!できた!

ステップ3
「実生活に即した問題」を提示

身近にあるものを題材にした問題



解決方法を確認

- ・昆虫の森まで実際に歩いて行ったことを思い出し、長さのイメージをもつ。
- ・問題の中に何コースあるか確認する。
- ・どのコースが一番短そうか予想する。
- ・「簡単な問題」のときは道のりをどうやって求めたか振り返り、生かせるようにする。

$$\begin{array}{r} 96 \\ +120 \\ \hline 216 \\ +210 \\ \hline 426 \\ +120 \\ \hline 546 \\ +170 \\ \hline 716 \\ +200 \\ \hline 916 \\ +1530 \\ \hline 2446 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 1170 \\ +220 \\ \hline 1390 \\ +200 \\ \hline 1590 \\ +140 \\ \hline 1730 \\ +1530 \\ \hline 3260 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 120 \\ +90 \\ \hline 210 \\ +120 \\ \hline 330 \\ +140 \\ \hline 470 \\ +1170 \\ \hline 1640 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 490 \\ +100 \\ \hline 590 \\ +100 \\ \hline 690 \\ +140 \\ \hline 830 \\ +1590 \\ \hline 2420 \end{array}$$

答え Bコース 分かった!できた!

もっと難しい問題にも挑戦してみよう!

○成果

課題の難易度が上がっても、すべての児童が最後まで真剣に問題と向き合うことができ、意欲的に課題を解決しようとする態度を育てることができた。

●課題

3つの課題を行う学習活動なので、1つの課題に対してじっくりと考えたり意見交流したりする時間が十分に設けられず、支援が必要な児童の意欲を継続させることが課題である。